令和４年度　東山本わかばこども園　　事例研究シート　　１歳児　令和４年６月６日～７月２９日

「水遊び大好き！」

◆子どもの姿からの肯定的な見取り
○入園当初は不安が大きく、泣くことで思いを表現していた。
・友だちや保育者がいっぱいいて不安を感じている。　・新しい環境に慣れず、わからないことがたくさんある。
→保育者が子どもたち一人ひとりの安心基地になれるようにスキンシップをとり、温かいかかわりを心がけ、信頼関係を結んできた。
○自分から遊び始めたり、かかわっていったりする姿が少ない。
・触れてみたことがない。　・遊びたい気持ちになっていないのか。
→子どもを遊びの環境に入れるのではなく、玩具や遊具を子どもの近くに持ってくるようにした。

「こうやったらお水が出てくるよ」
「先生見ててね。こう？」

「上手に取れた！」
「もう一回！」

「水を入れてジャ～！」
「もう水が出なくなった」
「もう１回やってみよう」

・新しい玩具や道具は、保育者が使って見せることで使い方を知らせた。自分でやってみたい子どもには、手を添えて使い方のサポートをするようにした。
・ペットボトルシャワーでは、子どもたちが水を怖がらないように、まずは足元に水がかかる程度にした。子どもたちの反応を見ながら次は目線の高さへと段階を踏んで徐々に水に慣れ、親しめるようにした。

・子どもたちの身近にあるもので、関心をもちそうな道具や用具を準備している。
・何度も繰り返して遊んでいるときは、静かに見守り、心ゆくまでその遊びを楽しめるようにしている。
・遊びの途中で目が合えば、笑顔や言葉を返し「楽しいね」「不思議だね」と気持ちに共感している。

「穴を指で抑えると水が止まるよ」
「揺らすと水がどこにいくかわからない」
「お水の動きがおもしろいな」

・子どもたちの水の慣れ具合や遊びの様子を見て環境を再構成した。同じ玩具でも置き方や位置、高さを変えてみて、遊び方に変化が生まれるように工夫した。
・子どものイメージがより広がるように食紅やクレープ紙を使って水に色を付けている。

「このお水の色きれいだな」
「コップに入れてみよう」

「スコップにお水を入れてみよう」
「ペットボトルにも入るかな？」

わかったこと
「保育者が子どもの姿を見取ったことで、子どもの意欲が育った。」

令和４年度　東山本わかばこども園　　事例研究シート　　３歳児　令和４年７月１日～７月３１日

カマキリってバッタ食べるん！？

◆子どもの姿からの肯定的な見取り

〇蚊やアリなどの虫を見て怖がり大騒ぎしたり、ダンゴムシやテントウムシなどを触る時の力加減が分からなくて潰してしまったりすることがある。

・小さな生き物を見たり、触れたりする経験が少ない。

→身近な生き物を子どもたちと一緒に探し、保育室でじっくり見られる環境をつくる。

→子どもたちの虫への興味を捉え、ダンゴムシやカマキリをつくってなりきって遊べるようにする。

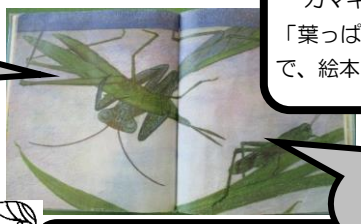
触れた！怖くないで！
痛くない！

Dちゃん触ってたから
触れるで！

ダンゴムシ、アゲハの幼虫など身近な生き物を間近で観察したり、触ったりできるように生き物コーナーをつくっていた。
小さな生き物に接する機会を大切にしてきた。

「部屋で飼いたい！」という子どもの気持ちを受けとめ、どんな場所が住みやすいかな？何を食べるのかな？など投げかけ、図鑑や絵本を見て考える機会を大切にした。

カマキリってバッタ
食べるんやって！



カマキリのご飯が何なのかわからず、「葉っぱやで」と葉っぱをあげていたので、絵本『カマキリくん』を読んだ。

（カマキリくんがバッタを捕食するページ）
あー！！（息をのむ）

飼いたい！
バッタ探して
くる！

「カマキリくんバッタ食べるんだって。どうする？お部屋で飼う？逃がしてあげる？」

（４日間）探したけど捕まえられへんかった。（カマキリくんお腹すくから）逃がしてあげる。

カマキリへの興味を遊びにも取り入れられるよう緑のビニパックを出しておく。

（緑色が）カマキリくんみたい。
こんちゃん（絵本の主人公）みたいにカマキリくんつくりたい！

こんちゃんみたい
に描けるかな。
真似しよう。

一緒やな！
セミの抜け殻！

セミさん
元気ないなぁ。
赤ちゃんやで（抜け殻をそっと置く）

わかったこと

「保育者が子どもの考えを尊重しながら次の手立てを考えたり、どこからでも興味のもてる環境をつくったりすることで、子どもの探求心が育った。」